

2022 年度長野県本部戸倉上山田温泉モデル撮影会

審査 関東本部委員長 江連康晴

【総評】

長野県本部主催によるモデル撮影会。町おこしの一環で上山田温泉地において行われた撮影会の作品が300点近く応募されてきました。2年半ぶりの撮影会とあって参加された会員の皆さんが目がかがやかせて一心不乱に撮影しながら、撮る楽しみを味わっていた様子が伺えました。一堂に会して撮影会ができる組織の素晴らしさと撮影する楽しみを再確認させられました。審査するにあたって同じ場所での撮影ですから同じような作品が出されてきていました。それだけに審査するのに苦労しました。レベル的にも高く、拮抗している作品が多く出されてきました。審査にあたっては、イメージ的に狙いのはっきりしている表現の作品をセレクトしました。次回も第二弾の撮影会を開催し、楽しみながら写真力を高めていただきたいと期待いたします。

＜最優秀賞＞「神のお使い」関口幸雄（神奈川県川崎市）

顔の表情が狐の化身としての神の使いを表しているようです。提灯から照らされる光がその表情を助長させています。特に片目に眼力があり、光に照らされて口角を上げたように映し出され妖艶な表情を高めています。

＜朝日新聞社賞＞「男も若さを！」島根八重子（長野市）

最近の顔パックにはこのように歌舞伎役者の顔を模したパックがあるのですね。インパクト感あふれる顔パックです。旦那に顔パックをつけてあげて若返りなさいと言わんばかりのおふざけムードいっぱいシーンを上手く捉えました。

＜全日本写真連盟賞＞「至福のとき」西村美枝（長野市）

どこか仙人の様な御仁がお酒を片手に何やらここで一杯といった感じが伺えます。よく見ると後ろには、湯舟が見えます。風呂上がりの一杯ということでしょうか。何気なく置かれた麦わら帽子とすだれが露天風呂の雰囲気醸し出しています。

＜優秀賞＞「至福のとき」宮島政子（高森町）

風呂上がりに母親の足にペディキュアを塗ってあげている。手前にペディキュアを塗る足を大きく取り入れて目立たせている撮り方がとても印象的です。そこから母親の嬉しそうな表情へと視線が導かれ、楽しそうな親子の関係が表現されました。

<優秀賞>「お茶目」橋本和嗣（長野市）

振り向きざまの表情がとても初々しい感じでいいと思います。スナップは背景が命といわれているように、この場の雰囲気有助長する役割があります。ここでは、それが活かされていていいと思いました。

<優秀賞>「ともしび」朝井美紀子（長野市）

提灯を見つめる表情とキツネ面の見上げる表情が不思議な雰囲気を醸し出しています。そして提灯に書かれている文言が現代的なもので、古きを訪ね新しきを知るといったように……。またはタイムスリップのような感じさえ窺える作品です。